



校長 酒井 治 己

平成29年度水産大学校入学式を挙げるにあたり、校長として式辞を申し上げます。

本科208名、専攻科45名、水産学研究科12名の新入生の諸君、水産大学校の教職員一同、心から入学を歓迎します。これまでの道のりを支えてこられた保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

また、水産庁の 保科正樹 増殖推進部長、下関市の林 義行 農林水産振興部長、国立研究開発法人水産研究・教育機構の 和田時夫 理事、水産大学校同窓会滄溟会の 本村紘治郎 会長、水産大学校後援会の 濱田盛承 理事をはじめ、ご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成部門である水産大学校は、76年の歴史と伝統を誇る我が国唯一の水産高等教育機関です。水産教育一筋に邁進し、水産業界で活躍する約1万名の卒業生を送り出してきました。

本科新入生諸君は、約4.5倍の志願者の中から入学を勝ち得ました。さぞ多くの勉強をされたことと思います。勉強とは「強いて勉める」と書きます。それは、受験の必要に強いられたものであったはずですが。これから諸君が本校において修める

のは学問、すなわち自ら「学び問う」行為を通じての水産学です。

本校は、実学教育を旨としています。水産学とは、水産に関する実学です。実学とは、すなわち実際に役立つ学問を言います。基礎知識を土台に、水産の現場で活躍できる技術と知識を学び、さらに知恵と経験と人脈を総動員して現場の問題を解決できる能力を身につけるのが、水産における実学教育です。

諸君には、本校の充実した教育体制と、機構の広範な研究体制のもと、水産学をしっかりと修め、社会に巣立つ準備をしていただきたいと思います。私達も、諸君と一緒に様々な課題解決に取り組み、水産学教育を通じて諸君の希望と期待に応えたいと考えています。

ただし、私達が、完全食品のような教育を与える事ができるとは考えないで頂きたい。諸君も、与えられた知識を、ただ餌のように食べるだけでは、それは「飼育」と同じと思って下さい。私達にできるのは、せいぜい諸君をインスパイアすること、すなわち水産学に目覚めさせることです。そこからが、諸君が自ら求めて学び問う、生きた学問となる事を、胆に銘じてほしいと思います。

水産都市、下関の恵まれた現場環境と学習環境の中で、自らの夢の実現のため、志を高く持って学び、決して後悔しない学生生活を送るよう、諸君の健闘を心より祈念し式辞といたします。